

令和8年度

東京都小学校体育研究会 夏季合同研究会

器械運動系領域部会

研究主題

自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けていく体育学習
～子供が学びを深めていくための教師の在り方について～

目指す子供像

友達と仲よく運動し、運動遊びとの多様なかかわり方に
気づきながら、夢中になって学びを広げ、深めていく子供

研究の重点と手立ての工夫

学習環境デザイン

- ア 世界観
- イ 場の設定
- ウ 遊びの共有

学習評価の充実

- ア 教師による学習評価の充実
- イ 子供による学習評価の充実

実証授業

授業日 令和8年11月24日（火）
場所 荒川区立汐入小学校
単元 第1学年 鉄棒を使った運動遊び
授業者 花塚 真吾 主任教諭

新規部員大歓迎
実技研修等依頼受付中

お気軽にご連絡ください。
パスワードは0320



1 研究の内容

(1) 器械運動系領域における研究主題の捉え方

本部会では、器械運動系領域は技の習得そのものではなく、技を成立させる運動技術（体の動かし方）や運動の原理を学び、よりよい動きを追究していくことが学習内容だと捉えている。子供は、自分や仲間の動きを観察・比較・分析して課題を見いだし、学びのサイクルを回しながら、動きを改善していく。このように、自分や仲間の動きのよさや課題について根拠をもって捉え、改善の方法を考えたり伝え合ったりしながら、身体を通して運動の原理を理解し、よりよい動きを表現していく姿が、本領域における学びを深めていく姿であると考え。そして、単に技が「できた」に留まらず、「なぜできたのか」を感じ取り、再現可能にしていくことで、概念的理解や転移可能な資質・能力が形成されていくことを目指している。

そのため教師には、技の成否だけでなく、子供との対話や観察を通して、子供の思考や動きの変容を丁寧に把握し、深い学びが実現されるよう支援することが求められる。

以上の考えから、1年生における目指す子供の姿を以下のように設定した。

目指す子供像 友達と仲よく運動し、運動遊びとの多様なかわり方に気付きながら、 夢中になって学びを広げ、深めていく子供	
【具体的な子供の姿】数回の遊びごとに、自ら学びのサイクルを回している子供	
○見通す	自分の力に合わせて、楽しくできる場や遊び方を選んでいる。
○実行する	行い方を工夫したり、遊びを組み合わせたり、友達と一緒に遊んだりして、遊び方を工夫して楽しんでいる。
○振り返る	動いて感じたことを振り返ったり、見付けた友達のよい動きや遊び方の工夫を伝えたりして、次にやりたいこと見いだしている。

(2) 部内授業の成果と課題

第1学年 マットを使った運動遊び 「よつぎどうぶつランド おはなしマットにチャレンジ！」

4つの場（坂道・ふわふわ・ジグザグ・川跳び）から遊びたい場と、5種類の動物（クマ・うさぎ・アザラシ・くも・しゃくとりむし）からなりきりたい動物を選んで遊ぶ活動を行った。「お話マット」を中心に学習を展開し、「くまさんがやってきて、元気に回って、はいポーズ」など、選んだ動物やお話に合わせて体を動かしたり、場の特徴を生かして遊んだりして、遊び方を工夫して運動遊びに取り組めるよう、学習環境をデザインした。

以下、研究の方針に沿って部内授業の成果と課題をまとめる。

	成果	実証授業に向けた課題
学習環境デザイン	○「どうぶつランド」という世界観を設定したことで、自然と動物になりきって、動きを工夫する様子が見られた。 ○坂道マット・川跳びマットなどの「動きたくなる場」を作ることで、回転・腕支持などのよい動きを引き出した。	○鉄棒の高さや逆さ姿勢になることに、不安感や恐怖心がある子供がいると予想される。幼児期の運動遊びの経験差を考慮し、多様な子供が「今もっている力」で、鉄棒を使った運動遊びを楽しめる学習環境をデザインしていく。
学習評価の充実	○動きのよさだけでなく、運動遊びとの多様なかわり方を称賛・価値付けすることで、「みる」「支える」意識が高まり、協働的に「お話マット」に取り組むことができた。	○本部会で目指している「動いて感じたこと」に関する気付きが少なかった。言葉で表現することが難しい1年生において、「感覚的な気付き」の言語化を支援する教師のかかわりが必要であると考え。

(3) 研究主題を実現するための手立ての工夫

①多様な子供が「自ら学び続ける」ための学習環境デザインの工夫

ア 世界観

授業者の学級において親しみがあり、いろいろな動きができる忍者をテーマとし、「しおりにんじゅつがくえんであそぼう」という単元を設定した。忍術修行を通して子供のいろいろな動きや、もっとやってみたいという気持ちを引き出し、熱中して遊びに入り込めるようにした。



イ 場の設定

鉄棒での運動遊びに慣れていない子供に対して、恐怖心や不安感を取り除くことを目的とした「安全・安心に取り組める場の工夫」と、子供の発想からいろいろな動きを引き出し、より主体的な学びにつなげることを目的とした「多様な運動遊びを引き出す場の工夫」の2つ視点から、場を設定した。さらに、動きのイメージが膨らみやすくなるよう名前を付けて提示していく。



ウ 運動遊びの共有

「忍者だったら、こんな動きをしそう」と子供が自ら考える余白を残すことで、様々な動きを引き出すことができる。子供から出た動きの中から、鉄棒運動につながる運動遊びを取り上げ、教師が価値付ける。さらに、その運動遊びを右イラストのように掲示することで、子供は夢中になって遊びながらも、学習のねらいを達成できるよう学習環境をデザインしていく。



② 教師と子供による学習評価（形成的評価）の充実

ア 教師による学習評価の充実

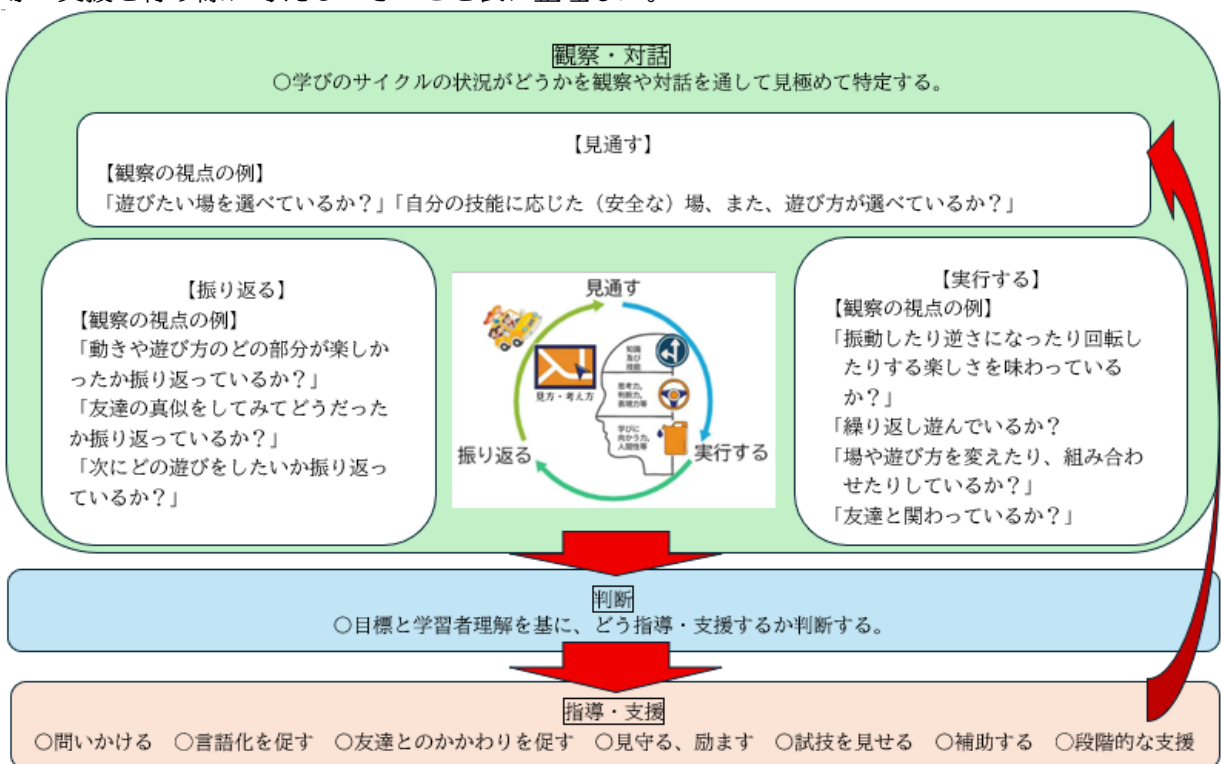
（ア）「教えること・価値付けること」

評価を充実させるには、目標の達成に向けて段階的・計画的に指導を行うことが重要であると考えられる。指導と評価の一体化を図るため、毎時間の指導の重点を設定した。

	1	2	3	4	5	6
	安全な行い方	運動とのかかわり	動きの言語化	友達とのかかわり	遊び方の工夫	
価値付けること・教えること	○場の使い方や学習のきまりを確認する。	○「知る・みる・支える」ことのよさを伝え、運動との多様なかわりを通して楽しんでいる子を称賛・価値付けする。	○オノマトペ等を用いて体の動かし方を表している子を称賛・価値付けする。	○友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている子を称賛・価値付けする。	○以下の工夫をしている子供を価値付け、共有する。 ・行い方の工夫 ・遊びの組み合わせ ・友達と一緒に	

（イ） 学びのサイクルを回せていない子供への教師のかかわり方

子供が自ら学びのサイクルを回すために、教師は子どもの学習状況を丁寧に見取り、一人一人の子供にとって適切な働きかけを行っていくことが求められる。そこで、指導場面で教師が指導・支援を行う際に考えるべきことを表に整理した。



イ 子供による学習評価の充実（対話を通じた評価活動の支援）

子供自身が自己や他者の学びを評価し、学習改善に生かすことは学びのサイクルを回す上で重要である。しかし、自ら学びを評価し、学習を調整していく能力は発達の段階や子ども一人一人によって異なるため、教師の意図的な働きかけを通して育てていく必要があると考える。以下のように、教師との対話を通して、子供自身が自己評価や相互評価をしながら、学びを調整していくことで、学びのサイクルをよりよく回し、学びを深めていけるように働きかけていく。

動いた感じの言語化	「今の動きかっこいいね！どうやったの？どんな感じがした？」
よい動きや遊び方の気付き	「〇〇さんのどこがよかった?」「真似てみてどうだった?」
学びのサイクルの促進	「どうだった?」「どうしたらもっと楽しく遊べるかな?」

2 学習指導案

(1) 単元の目標

知識及び技能	鉄棒を使った運動遊びの行い方を知るとともに、鉄棒を使って、手や腹、膝で支持したり、ぶら下がったり、揺れたり、跳び上がったり、跳び下りたり、易しい回転をしたりすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	鉄棒を使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	鉄棒を使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とも仲よく運動したり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	①鉄棒を使った運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。 ②鉄棒を使って、手や腹、膝で支持したり、ぶら下がったり、揺れたり、跳び上がったり、跳び下りたり、易しい回転をしたりするなどして遊ぶことができる。
思考・判断・表現	①鉄棒を使った簡単な遊び方を選んでいる。 ②友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	①鉄棒を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り、誰とも仲良くしようとしている。 ③器械・器具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ④場の安全に気を付けている。

(3) 第1学年の学習過程と評価の重点（全6時間）

時	1	2	3	4	5 (本時)	6
段階	学習の進め方や安全のきまりを確認し、見通しをもつ。	運動遊びを楽しみながら、友達の動きを真似して学び合い、できる動きを増やす。			遊び方を工夫したり、友達と選んだ場に取り組んだりしながら、互いのよさを認め合う。	
学習活動	○学習の流れを確認する。○場の準備をする。○準備運動をする。					
	○学習の進め方、安全についてのきまりを確認する。 ○汐入忍術学園で遊ぶ。	○汐入忍術学園で遊ぶ。 ○忍者発見！まねっこタイムをする。 第2時→ぶら下がり、振動 第3時→跳び上がり・下り、支持 第4時→易しい回転 ○汐入忍術学園でもっと遊ぶ。			○汐入忍術学園で遊ぶ。 ○忍者発見！まねっこタイム。 ・動きを工夫したり、友達と遊んだりしている場面を紹介する。 ○汐入忍術学園でもっと遊ぶ。	
	○整理運動をする。○場の片付けをする。○学習の振り返りをする。					
知			①			②
思				②	①	
主	④	③	②			①

(4) 一単位時間の流れ(本時案)【第5時】

① ねらい

知識及び技能	鉄棒を使って、手や腹、膝で支持したり、ぶら下がったり、揺れたり、跳び上がったり、跳び下りたり、易しい回転をしたりする動きを身に付けることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	鉄棒を使った簡単な遊び方を選ぶことができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	鉄棒を使った運動遊びに進んで取り組むことができるようにする。

※本時は、主として【思考・判断・表現】を評価する。

② 展開

児童の学習活動	○教師のかかわり ○学びを深めている子供の姿 ☆配慮の必要な子供への支援 □評価(方法)
(1) 集合・整列・挨拶をする。	○子供の健康確認と服装確認をする。
(2) 学習の流れを確認する。	○掲示物を用いて、前時までの学習と本時の流れを確認する。
(3) 場の準備をする。	○安全に気を付けて準備をするように言葉かけをする。
(4) 準備運動をする。	○手首等、よく使う部位を意識するように言葉かけをする。
(5) 汐入忍術学園で遊ぶ。	○主体的な取組を価値付け、運動をしている子供が自分なりの感覚や工夫を言葉にできるように問いかけることで、見ている子供が「体の使い方」や「工夫のポイント」に注目できるようにする。 ◎これまでの遊びをもとに、自分からすすんで楽しくできる場や遊び方を選び、何度も繰り返しながら遊んでいる。 ☆どの場で遊べばよいか迷っている子供には声をかけ、友達の動きを見るきっかけをつくる。
(6) 忍者発見!まねっこタイム。	◎友達の動きを振り返り、行い方を工夫したり遊びを組み合わせたりして、さらに遊び方を工夫しようとしている。 ○友達のよい動きを見つけたことを価値付け、「どうすれば真似できるかな?」と問いかけ、動きのポイントを全体で共有する。 ☆動きのポイントを意識して言葉がけし、気付きを促す。
(7) 汐入忍術学園でもっと遊ぶ。	○共有した動きを意識して取り組んでいる子供を価値付け、学級全体に広げる。 ◎自分が発見したコツや感覚を自分なりの言葉で表現している。 ○「どうしたらもっと楽しくなる?」と問いかけ、見つけた動きを工夫したり、友達と組み合わせ遊んだりするなど、さらなる工夫を考えられるように支援する。 □鉄棒を使った簡単な遊び方を選んでいる。(観察、学習シート) ○発見したコツを言葉にできたことを価値付け、学級全体の動きのポイントを整理する学びにつなげる。
(8) 整理運動をする。	○使った部位に痛みがないか確認するように言葉かけをする。
(9) 場の片付けをする。	○安全に気を付けて片付けをするように言葉かけをする。
(10) 学習の振り返りをする。	○自己の学習活動に対して振り返るように言葉かけをする。 ☆自己の学習を振り返り、楽しく遊べたこと、工夫したことを考え、次時の学習への意欲を高められるように支援する。
(11) 集合・整列・挨拶をする。	○子供の健康確認をする。

(5) 実証授業で明らかにしたいこと

- ① 第1学年の子供が学びを深めていく姿について
- ② 多様な子供が「自ら学び続ける」ための学習環境デザインについて
- ③ 子供の「自ら学び続ける力」を高める学習評価の充実について

○ 検証方法について

ア 事前・事後の意識調査 イ 毎時アンケート ウ 学習シートの記述内容

○ 検証内容

ア 事前・事後の意識調査

質問項目には、「鉄棒を使った運動遊びが好きか」「友達と学び合うことのよさ」や「体育の学習で大切だと思うこと」、「鉄棒を使った運動遊びをもっとやりたいと思ったきっかけ」などを設定し、事前・事後の数値の変容から検証する。

イ 毎時アンケート

毎時間の授業後、子供が1時間の授業について感じた気付き「学習への取り組み方」、「愛好的態度」等の項目について、形成的授業評価のアンケートを取る。アンケート項目の数値から、実証授業に向けた手立てが有効であったかを検証する。

ウ 学習シートの記述内容

単元を通して、子供が毎時間の自己評価を記入できる1枚の学習シートを使用し、毎時間の記述の内容を見取っていく。ここでは、主に自らどのように学習に取り組んだのかを振り返る。

(6) 参考資料 （これまでに部会で作成した資料）

①運動遊び資料集	②技カード	③補助の行い方動画
固定施設・鉄棒を使った運動遊びの資料集	技の行い方、ポイント、練習方法を載せた資料	各運動の補助の行い方動画を載せた資料
		
④オリエンテーション漫画	⑤技動画	⑥実技研修動画
学習の見通しをもてるようにするための資料	技の行い方、ポイントを載せた動画資料	鉄棒運動の実技研修の様子を撮影した動画資料
		

東京都小学校体育研究会 器械運動系領域部会



ホームページは左のQRコード



器械運動系領域部会 出張依頼 7回～第11回

だより6
だより5
だより4

ホームページでは、
これまでの研究について
ICT資料のDLリンク
技カードなどの過去の学習資料
部会の予定 などが閲覧可能です。ぜひ、ご活用ください。



検索



ホーム

東京都小学校体育器械運動部

チャンネル

動画

YOUTUBEは、右のQRコード



マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動の資料動画
実技研修の動画、オリエンテーション動画など多数掲載中



「器械運動に向き合うすべての先生のパートナーに。」